

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	一般財団法人長野市文化芸術財団	
施設名	長野市芸術館	
内定額	7,100	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		305	305
年間事業本数（※1）	主催事業	27	32
	公演事業	7	8
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	4	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	普及啓発事業	16	20
	（内、本助成対象事業本数）	5	7
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	440	408
	ホール名：メインホール 座席数：1292	136	127
	ホール名：リサイタルホール 座席数：293	155	143
	ホール名：アクトスペース 座席数：230	149	138
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	17,388	24,556
	公演事業	5,224	6,460
	人材養成事業	1,067	1,357
	普及啓発事業	11,097	16,739
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数	100,541	111,374
	その他 内容： 練習室利用者数	24,970	39,234
	計	142,899	175,164
施設の利用率(%)		100.0%	100.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	7	7	5,224	82.5%	0	7	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	13	15	9,556	60.5%	2	10	0	1	0	0	0
	貸館公演（※3）	198	218	68,856	55.3%	14	155	15	3	6	4	1
	計	218	240	83,636								
令和6年度	主催公演（※1）	8	10	6,460	95.9%	0	6	0	2	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	12	12	14,637	70.2%	2	7	1	0	0	2	0
	貸館公演（※3）	206	221	76,658	54.6%	7	155	25	8	6	5	0
	計	226	243	97,755								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数	入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業						
普及啓発事業	1)市民参加型事業 プロのアーティストによる実演芸術の鑑賞の場に留まらず、市民参加による実演芸術創造の拠点として市民に求められていることを測る指標として、参加者の満足度及び再参加の意向をアンケートで調査する 2)普及啓発事業全般 市民の需要と好奇心にあった魅力的な公演企画であったかを測る指標として、来場者の企画・公演への満足度をアンケートで調査する。 3)レジデントアーティスト 市民とアーティストをつなぐ場として、当館を拠点のとして活動する県内出身の12名によるアンサンブル「NAGANO12」のアーティストたちの活躍を十分に創出するため、今年度予定している全ての公演を滞りなく開催し、市民に広く認知される活動を行う。	1)参加者の参加満足度及び再参加希望 共に85%以上 2)来場者 公演満足度85%以上 3)普及啓発事業の対象となる、当館のレジデントアーティスト12人の活動の維持及び、公演回数5回	1)市民参加型事業の3事業で満足度及び再参加希望についてアンケートを実施した。 ①参加満足度 2公演で85%以上の満足したという回答をいただき、1公演も81%から満足という回答があった。 ②再参加希望 1公演で85%以上から再参加の希望の回答あった。残る2公演についても、参加を希望しないと回答した割合はほとんどなく、ほぼ100%の方が参加したいもしくはわからないと回答した。 2)6事業で来場者に対して公演満足度についてアンケートを実施し、全ての公演で85%以上から満足という回答があった。 3)レジデントアーティスト12人の公演について5回実施を行った。	本事業では、地域ニーズを的確に把握し、多彩な芸術要素を組み合わせた企画・制作を実現した。企画面においては、4歳から中学生を対象とした「普-01 オーケストラ入門コンサート」において、本格的なフルオーケストラの指揮者体験を導入し、従来実施してきた乳幼児向け公演からのステップアップを図った。「普-02 シニア演劇アカデミー」では、未経験の高齢者によるジャズ・ミュージカル作品の創作・上演を初めて行い、新たな学びと生きがいの提供を実現した。また、NAGANO12を活用した「普-06 NAGANO12訪問コンサート」やスーパー・ウインド・オーケストラとの共演した「普-07 スーパー・ウインド・オーケストラ with NAGANO12」を通じて、実演芸術の裾野を広げた。 制作面では、東京交響楽団や東京混声合唱団など全国的に著名なプロを招聘し、子どもや市民との共演機会を多数設定した。「普-04 東京混声合唱団 長野市のこどもコーラスとともに」においては、子どもコーラス100名とプロ合唱団が共演し、専門的な指導のもとで質の高い成果を挙げた。 発信面では、地元メディアやSNSを積極的に活用し、「普-01 オーケストラ入門コンサート」公演は出演者のテレビ出演に合わせてチケット販売を行い、完売を達成した。また、「普-03 ぶっとびクラシック」のレクチャー型公演においても平日夜にもかかわらず、毎回8割のチケット販売を記録し、地域の実演芸術を牽引する基盤を構築した。 さらに、12名のNAGANO12メンバーによる5回の公演を円滑に遂行し、創造拠点としての定着を果たした。市民参加型事業における満足度は、満足したとの回答が「普-05」で81%となり、目標値に届かなかったものの、「普-04」「普-07」ではいずれも90%以上から満足したとの回答があり、高い満足度を達成した。全公演における来場者満足度も85%以上を記録するなど、目標を上回る成果を果たした。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

普-01:オーケストラってなあに？ 東京交響楽団とともに贈るオーケストラ入門コンサート
「普-01 オーケストラってなあに？ 東京交響楽団とともに贈るオーケストラ入門コンサート」では、従来乳幼児～小学校低学年が中心だった当館の子供向けコンサートを、本年度は敢えて中学生にも対象を拡大し、本格的クラシック体験を提供する企画を実施した。プログラムは子どもが既に親しんでいる楽曲を軸に選定し、指揮者体験コーナーを設置。原田慶太様氏と長野県出身のタレント乙葉氏によるトークで興味を喚起し、随所にステージ参加型の仕掛けを配した。市教育委員会の協力のもとチラシを市立の全小學生に配布、発売直後にほぼ完売となった。来場者アンケートでは97.5%が「良かった」と回答し、希望した子ども全員がステージに上がって順番に指揮するサプライズ演出も大好評を博した。これにより、従来の枠を超えて年齢層を引き上げる大胆かつ効果的な企画力を実証したといえる。

普-02:西村まさ彦プロジェクト シニア演劇アカデミー第6期公演「虹の彼方に」「シング・シング・シニア」
60歳以上の市民を対象とした演劇ワークショップでは、西村まさ彦氏の監修のもと、演劇未経験のシニア層がオリジナル脚本によるミュージカル作品を完成させた点が大きな成果である。参加者の9割以上が「参加して良かった」と回答し、「人生最高の経験」「高齢でもこんなに輝けるとは思わなかった」といった肯定的な声も多数寄せられた。制作過程においては、シニアならではの豊かな人生経験を脚本に反映し、地域に根ざしたストーリーとして観客からも高い評価を得た。また、演劇未経験者を対象としながらも、演出家、音楽監督、振付指導など専門スタッフが適切に参加者の才能・技能を引き出す体制を整備し、高いクオリティを実現した。これにより、高齢者の生きがい創出に寄与するとともに、新たな演劇人口の拡大にもつながる取り組みとなった。

普-03:加藤昌則のぶっとび！クラシック 【交響曲ってなあに?】
本レクチャーシリーズ「加藤昌則のぶっとび！クラシック」は、2018年度より継続する人気企画であり、今年度は「交響曲」をテーマに再構築し、5人の作曲家による5つの交響曲を1年間かけて深掘りした点が特徴である。特に注目すべきは、講座開講当日の昼間(講座開始前)に地元ラジオ局SBC信越放送で公開収録を実施し、同局のリスナー層に直接訴求できたことである。講師の加藤昌則氏は地域に根ざしたアーティストであり、当館を拠点とした活動により、番組制作と連携した効果的なプロモーションが実現した。結果として、全5回の講座はいずれもほぼ満席となる250名前後の来場者を集め、来場者アンケートでは87.2%が「良かった」と回答。「コンサートに行きたくなった」「今日解説された曲を生演奏で聴いてみたい」といった声も多数寄せられ、文化芸術の普及啓発に大きく寄与した。地域に根差すアーティストと劇場が連携し、相乗効果を生み出す企画設計は、企画性が向上した取り組みとなった。

普-04:東京混声合唱団～長野市のこどもコーラスとともに
本企画では、長野市芸術館ジュニア合唱団、長野市児童合唱団、長野少年少女合唱団の3団体、計100名を超える市内の子どもコーラスが、日本を代表するプロ合唱団・東京混声合唱団と共演する機会を創出した点が大きな特色である。事前指導においては、東京混声合唱団から講師を招聘し、各団体の指導者と連携して練習を実施した。その結果、子どもたちはプロの高い技術と豊かな表現力を間近で体験することができ、合唱技術の向上が見られた。加えて、これまで個別に活動していた3団体間の交流が進み、子どもたちの間に新たな合唱コミュニティが形成されたことも意義深い。公演当日のアンケートでは、94.9%が来場を「良かった」と評価しており、高い芸術性と地域性の両立を目指した企画設計が確かな成果を上げたものである。

普-05:カルミナ・ブラーナ 2024
アマチュアオーケストラの長野市交響楽団と市民300人による合唱公募団で構成された《カルミナ・ブラーナ》の上演は、長野市内では演奏機会の少ない大編成作品の定着化を目指す取り組みである。特に注目すべきは、当館開館5周年記念事業として当館が委嘱した加藤昌則氏の新作《春》を合唱とオーケストラで世界初演した点であり、コロナ禍により延期されていた企画を満を持して実現した意義は大きい。作曲家の加藤昌則氏が長野各地を取材し、作詞家とともに地域に根ざした楽曲を創作したことにより、参加者に地元への愛着を促す内容となった。アンケートでは、参加者の89.7%が「次回も参加したい」と回答し、一般来場者からも回答があったすべての人が「良かった」「やや良かった」と評価するなど、大編成ゆえの難易度と新曲の魅力を兼ね備えた企画として高く評価された。また、字幕や歌詞対訳を投影・配布するなど、来場者の楽曲理解を促進する工夫がなされ、満足度の向上にも寄与した事例である。

普-06:NAGANO12訪問コンサート
当館のレジデントアーティストであるNAGANO12(若手プロ奏者12名)による訪問コンサートは、学校や公民館といった従来アーティストの訪問が難しかった場に実演芸術を届け、新たな接点を創出する取り組みである。特に北部中学校および三陽中学校では、演奏後に吹奏楽部員とプロ奏者が交流する時間を設け、直接技術指導や助言を受ける機会を提供したことで、学校現場における吹奏楽文化の活性化を促した。また、公民館での公演では、高齢者を含む地域住民200～400名が来場し、本格的なコンサートを身近に体験できる場を提供。こうした活動は、世代を超えて地域に芸術を届けるアウトリーチ事業として高い効果을上げており、創造性・企画性の向上を象徴する事例である。

普-07:須川展也プロデュース 長野市芸術館プラス・フェスティバル Vol.6 スーパー・ウインド・オーケストラ with NAGANO12
当館のレジデントアーティストNAGANO12(若手プロ奏者12名)に、中学生以上のアマチュア演奏家を公募して結成した「スーパー・ウインド・オーケストラ(SWO)」との共演企画は、地域の吹奏楽愛好者層を世代・経験を超えて結びつける画期的な試みである。須川展也氏の指導のもと、プロと約70名のアマチュアが混在するリハーサル環境を整備し、楽器別パート練習を徹底することで、プロからの直接指導機会を創出した。参加者アンケートでは94.7%が「満足」と回答し、同世代間のみならず世代を超えた交流が演奏の質と文化的モチベーション双方の向上につながった。特に、前年秋に実施されたNAGANO12訪問コンサートが広報面で高い評価を得たことで、本企画のSWO参加公募への関心が高まり、事業の連携性と実効性を強化する好循環を生んだ点は、注目すべき成果である。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
1)「文化芸術でさらに心豊かで幸せな街に」をテーマにした当館第3ステージの活動として様々な理由で鑑賞の機会の少ない家庭向けに提供する「ART ANGEL TICKET」制度を創設。その利用状況とアンケート結果を指標とする。 2)館の持つこれまでの公演実績とノウハウを尽くし、市民のニーズにこたえるレクチャー型公演をさらにブラッシュアップさせた企画を開催する。満足度及び高校生以下の対象チケットの販売率を指標とする。 3)貸館利用者に対しアンケートを実施し、その貸館利用者の満足度を指標とする。 4)ホールの空き日を活用し、練習等で格安で利用できる「ステージ体感プラン」の実施し、その利用者が施設を借りてみたいと思う割合を指標とする。	1)普及啓発事業の対象となる事業のうち、3事業以上で実施すること/アンケートでまた公演に来てみたいと回答した割合 85%以上 2)レクチャー型 満足度85% 子供対象チケットの発券枚数が全体チケット発券枚数の30%以上の発券 3)90%以上が対応に「満足」「ほぼ満足」と回答 4)「ステージ体感プラン」利用者アンケートから施設を借りてみたいと回答した割合80%	1)ARTS ANGEL TICKET ①実施状況 普及啓発事業の対象とする公演のうち5公演で子どもたちから要望を受け、チケットを無償で配布した。 ②アンケート結果 「ARTS ANGEL TICKET」制度を利用しアンケートに回答いただいた、すべての子供達から公演にまた来てみたいと回答があった。 2)レクチャー型公演として実施した2公演でアンケートやチケット発券枚数から調査を行った。 ①公演満足度 2公演において、90%以上から満足していると回答があった。 ②子ども対象チケットの発券枚数 レクチャー型公演のうち1公演において、子供対象のチケットの発券枚数が全体の30%以上となった。 3)貸館利用者にアンケートを実施し、94.6%の方から満足していると回答があった。 4)「ステージ体感プラン」利用者からアンケートを実施し、80%以上の方から「借りてみたい」回答があった。	本年度は、地域の文化資源を最大限活用し、地域住民のニーズに応える多様な取り組みを実現できたと考ええる。まず、今年度から初めて「ARTS ANGEL TICKET」プロジェクトを実施し、要望のあった「普-01 オーケストラってなあに？ 東京交響楽団とともに贈るオーケストラ入門コンサート」「普-03 加藤昌則のぶっとび！クラシック【交響曲ってなあに？】」「普-04 東京混声合唱団～長野市のこどもコーラスとともに」「普-05 カルミナ・ブラーナ 2024」「普-07 スーパー・ウインド・オーケストラ with NAGANO12」の5事業に対して、協賛金を活用して、経済的事情など様々な理由により鑑賞機会の少ない家庭に無償チケットを提供した。アンケートに回答があった「ARTS ANGEL TICKET」を利用したすべての家庭から「再来意向あり」と回答があり、経済格差等の是正など、社会課題の解決につながる役割を果たした。 次に、レクチャー型公演「普-03 加藤昌則のぶっとび！クラシック 【交響曲ってなあに？】」（1時間目～5時間目までの計5回）では、講師・加藤昌則氏と共に、これまでのアンケート結果等の地域ニーズを踏まえて企画をブラッシュアップし、満足度90%以上を獲得した。また、「普-01 オーケストラってなあに？ 東京交響楽団とともに贈るオーケストラ入門コンサート」において、子供対象のチケットの発券枚数が全体の30%以上となり、目標値を達成した。 貸館事業においては、年間を通じてアンケートを実施し、94.6%が「対応に満足」と回答する結果となった。日頃より丁寧な接客を行うなど、サービスの向上を図ってきたことがアンケート結果で良い結果につながった。また、ホール空き日を活用した「ステージ体感プラン」においては、利用者アンケートで80%以上が「借りてみたい」と回答しており、将来的な利用拡大が見込まれる成果を得た。 これらの取り組みを通じて、長野市芸術館は地域文化の中核拠点として、子どもから高齢者まで幅広い世代に文化芸術に触れるの機会を提供し、地域の文化芸術の拠点施設としての役割をより一層強固なものにすることができた。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

①「普-04 東京混声合唱団～長野市のこどもコーラスとともに」「普-05 カルミナ・ブラーナ 2024」「普-07 スーパー・ウインド・オーケストラ with NAGANO12」では、普段交わる機会のない、学生と社会人、一般市民とプロの奏者など社会的背景の異なる人々が音楽を通じてひとつのステージを作る目的に向かって取り組むことで自然と輪が生まれ、地域コミュニティの創生に繋げることができた。
②「普-3 ぶっとびクラシック」では、公演アンケートに質問を書くこと次の回でアンサーが出るほど、観客と出演者の交流もあり、出演アーティストとやレクチャー型公演が身近になった。こうした取り組みは、地域ニーズを直接公演に活かした取り組みの事例となっており、地域に根差した公演となったといえる。
③児童生徒への機会提供としては、「「普-01 オーケストラってなあに？ 東京交響楽団とともに贈るオーケストラ入門コンサート」では、子供達が指揮を体験できる機会を企画。当初の予定を遥かに超える300人程度の子供達やその家族の方々から指揮を体験してみたいと挙手が上がり、急遽指揮者体験を予定していた曲数を1曲から2曲に変更するなど、公演の中で子供達の興味を引き立てたことが結果として、体験機会の提供にもつなげることができた。
④施設利用者への支援強化:館内貸館サービスの利便性向上も図りました。例年練習室利用者に感謝する「オープンハウス」を開催し、練習室利用者が日頃の練習の成果を発表できる企画をリサイクルホールとアクスペースで実施するなど、貸館利用者の創造支援を強化し、アンケートからも高い満足度を頂いた。

評価項目④: 多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
1)「文化芸術でさらに心豊かで幸せな街に」をテーマにした当館第3ステージの活動として、協賛金を活用し、様々な理由で鑑賞の機会が少ない家庭向けに提供する「ARTS ANGEL TICKET」制度を創設。その利用状況とアンケート結果を指標とする。 2)プロとアマチュア(未経験者含む)が出演者として共演した事業数とその参加者の満足度	1)普及啓発事業の対象となる事業のうち、3事業以上で「ARTS ANGEL TICKET」制度を実施すること/アンケートでまた公演に来てみたいと回答した割合 85%以上 2)普及啓発事業の対象となる事業のうち、3事業以上で実施すること/参加満足度85%以上	1)ARTS ANGEL TICKET ①実施状況 普及啓発事業の対象とする公演のうち5公演で子どもたちから要望を受け、チケットを無償で配布した。 ②アンケート結果 「ARTS ANGEL TICKET」制度を利用しアンケートに回答いただいた、すべての子供達から公演にまた来てみたいと回答があった。 2)プロとアマチュアの共演 ①公演数 普及啓発事業のうち4公演でプロとアマチュアの共演を行った ②参加満足度 プロとアマチュアが共演した3公演で参加者からアンケートを実施し、2公演で90%以上から満足したと回答があり、1公演についても、80%以上の方から満足したと回答を頂いた。	本年度の普及啓発事業では、「多様性とアクセシビリティ」の向上を課題と捉え、制度設計・運営・プログラムの三方面からアプローチを行った。まず、評価指標1として設定した「ARTS ANGEL TICKET」プロジェクトは、「普-01 オーケストラってなあに？ 東京交響楽団とともに贈るオーケストラ入門コンサート」「普-03 加藤昌則のぶっとび！クラシック【交響曲ってなあに？】」「普-04 東京混声合唱団～長野市のこどもコーラスとともに」「普-05 カルミナ・ブラーナ 2024」「普-07 スーパー・ウインド・オーケストラ with NAGANO12」の5公演で実施し、計74枚のチケットを届けた。また、「ARTS ANGEL TICKET」プロジェクトを利用した子供達からのアンケートでは回答者の100%が「また来てみたい」と回答し、目標の「公演のうち3事業以上で実施／再来意向85%以上」を大きく上回った。 次に、評価指標2におけるプロとアマチュアの共演は、「普-02 シニア演劇アカデミー」、「普-04 東京混声合唱団～長野市のこどもコーラスとともに」、「普-05 カルミナ・ブラーナ 2024」、「普-07 スーパー・ウインド・オーケストラ with NAGANO12」で実現した。いずれも出演者の年齢・技術レベル・居住地が多様化し、共演を通じてアーティストや市民それぞれの個性が引き立った。参加者アンケートでは、普-02で93%、普-05で81%、普-07で100%が「満足」と回答し、「3事業以上実施／参加満足度85%以上」の目標を達成した。 さらに、プログラムの多様性では、オーケストラ入門、シニア演劇、クラシック講座、市民合唱、吹奏楽の訪問コンサートなど、ジャンルも形式も多岐にわたる内容を揃えた。これにより、子どもから高齢者、初心者から愛好家まで幅広い層が参加・来場することが可能となった。また、会場設備面では車いす席の確保、スタッフによる個別サポートを徹底し、障がいの有無・年齢・性別を問わずあらゆる人が安心して鑑賞できる環境を整備した。 以上の取り組みにより、「誰も取り残さない文化芸術の場」を目指す目的を十分に果たしたと自己評価している。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

①「ARTS ANGEL TICKET」は、経済的事情など様々な理由で鑑賞機会が乏しい家庭に対し、無償でチケットを提供する仕組みである。助成金対象事業としては、「普-01 オーケストラってなあに？ 東京交響楽団とともに贈るオーケストラ入門コンサート」「普-03 加藤昌則のぶっとび！クラシック【交響曲ってなあに？】」「普-04 東京混声合唱団～長野市のこどもコーラスとともに」「普-05 カルミナ・ブラーナ2024」「普-07 スーパー・ウインド・オーケストラ with NAGANO12」の5事業において実施した。特に「普-01 オーケストラってなあに？」では、地域内外の子どもたちから多くの希望が寄せられ、合計約30枚のチケットを無償配布した。対象事業のアンケートでは全ての家庭が「また来たい」と回答し、初めて本格的なフルオーケストラを生で体験した子どもからは「楽器がどのように合わさって音楽になるかが理解できて楽しかった」「両親とともに来場できて良かった」といった声が寄せられた。
②プロとアマチュアとの共演に関する取り組みとしては、「普-02 シニア演劇アカデミー」「普-04 東京混声合唱団～長野市のこどもコーラスとともに」「普-05 カルミナ・ブラーナ 2024」「普-07 スーパー・ウインド・オーケストラ with NAGANO12」の4事業を実施した。 「普-02」では、俳優の西村まさ彦氏をはじめ、プロの演出家からの指導のうえ、本番ではプロジャズバンドと60歳以上の市民団員により、ジャズバーをテーマに二つの公演を届けた。また、公演開催にあたり、出演者のほか、これまで長野市芸術館の主催の市民演劇に参加経験のある20代～70代の方々がもボランティアスタッフとして参加するなど、性別年代を問わず多様な参画が実現できた公演となった。 「普-04」では、長野市芸術館ジュニア合唱団、長野市児童合唱団、長野少年少女合唱団という3つの市内児童合唱団(計100名超)と東京混声合唱団がステージを共にした。事前練習ではプロ団員による個別指導を行い、子どもたちは「プロの歌声を間近で感じ、自分たちもいっそう努力しようという意欲が湧いた」「共に歌うことで自信が喚起された」と述べ、アマチュアとプロが交わることで相乗効果が生じた事例である。 「普-05」では、市民オーケストラと公募による300名の合唱団がプロ歌手・大学教授の直接指導を受けた結果、合唱技術や演奏理解が飛躍的に向上した。特に大編成公演に初めて臨むアマチュア合唱団員の中には緊張する者もいたが、プロ指揮者やソリストによるステージ特訓を経て自信を深め、当日は「歌詞のニュアンスを正確に表現できた」「他パートとのアンサンブルの楽しさを実感した」との感想が聞かれた。 「普-07」では、中学生以上のアマチュア吹奏楽団員(SWO)約70名を公募し、レジデントアーティストNAGANO12と共演した。参加者は中学生から社会人まで多様な性別・年齢・職業層で構成され、初期の練習段階では技術差への不安が見られたが、プロ奏者による楽器別個別指導を丁寧に行うことで、練習2回目以降には緊張が緩和され、互いにアドバイスを交換する協調的な雰囲気醸成された。本番ではアマチュアの視点から「プロ奏者の音色や表現を至近で体感できた」との声が多く寄せられ、アンケートでは参加満足度94.7%を記録した。プロとアマチュアが混在するステージが、演奏技術向上のみならず世代間交流や相互学習の場として機能したことは大きな成果である。
③プログラムの属性面における多様性は、7事業を通じて「年齢」「興味」「参加形態」の3軸で広範な対応を実現した。「普-01」では4歳から中学生を対象に子ども向けガイドトークを導入し、各世代が飽きずに楽しめる工夫を重ねた。「普-06 訪問コンサート」では、学校および公民館という劇場外の場を活用し、劇場まで足を運びにくい地域の中学生・住民にも質の高い演奏を届けた。北部中・三陽中では普段吹奏楽に関わりの少ない生徒も対象にコンサートを実施し、特に吹奏楽部員にはアンコールでNAGANO12メンバーとの共演機会を提供した。地域住民向けには高齢者が座りやすい席配置やスライド投影による楽曲解説を行い、約300名の集客を達成した。これにより、施設構造に依存しないアクセスの多様化を実現したのである。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	はい		はい	営業活動を行い様々な企業から活動にご理解をいただき、協賛社数が111社となるなど収入の獲得に努めた。		
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	はい		はい	SNSやラジオ、情報誌「Knot&」等を活用し、効果的な情報発信と集客強化に努めている。		
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	はい		はい	県内外の劇場や音楽団体と連携し、共催事業や招待公演を実施するなど、効果的な協力体制を築いている。		
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	はい		はい	設置者と連携し、事業費や人件費の確保を適正に行っている。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	はい		はい	経験豊富な制作のプロデューサーを配置し、芸術面を統括している。		
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	はい		はい	これまでの経歴からも、高いマネジメント能力を発揮できる人材を配置している。		
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	はい		はい	外部の研修に参加するなど、必要な専門知識の把握に努めている。		
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	はい		はい	館長、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。		
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	はい		はい	人材確保にあたっては、年齢バランスを考慮し、人材育成に繋がるよう努めている。		
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	はい		はい	女性のリーダー職への登用に努めている。		
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	はい		はい	社会保険労務士と契約し、法令変更に基づき、適宜内部規則を変更するなど適切な対応をとっている。		
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	はい		はい	各種コンプライアンスについて周知・徹底を行っている。		
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	はい		はい	相談窓口を設置し、組織内に防止のための周知を行っている。		
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	はい		はい	内部規定に基づき適正に契約を締結している。		

4. 総評

・団体の自己評価

長野市芸術館は令和6年度、劇場・音楽堂等機能強化推進事業において、普-01から普-07までの7つの普及啓発事業を「育む」「楽しむ」「創る」「つなぐ」の4つの柱に据え、当初計画どおり完遂した。これらの事業はすべて「文化力あふれるまち 長野市」の拠点として、多世代・多層の市民を巻き込みながら実現されたものであり、令和6年度から運用を開始した長野市芸術館第三期指定管理方針の理念「ここからつながる 文化芸術でさらに心豊かで幸せなまちに」にも沿う内容であった。

◆文化的意義

「普-01 オーケストラってなあに？」や「普-03 ぶっとび！クラシック」は、従来の0歳から入場可能なコンサートやレクチャー型公演をさらにブラッシュアップし、本格的なクラシック音楽を身近に体感できる場として定着させた。「普-01」ではフルオーケストラを理解しやすいプログラムで提示し、小学生から中学生をターゲットに、大人も巻き込んで音楽の仕組みを親しみやすく解説した。その結果、アンケートでは97%以上の満足度を獲得し、子ども向けチケット販売率30%以上という結果を得て教育的価値を高めることができた。「普-03」では交響曲の構造や作曲家や時代の背景を解説することで鑑賞教育の要素を強化し、90%以上の満足度を得た。また、「普-04 東京混声合唱団とこどもコーラス」では、市内3団体の児童コーラスがプロと共演し、合唱技術向上のみならず「地域の合唱文化の継承・発展」を担う一助となった。これにより、地域の文化資源を活用しつつ新たな鑑賞体験を創出した。

◆社会的意義

長野市は高齢化率の上昇に直面しており、シニア層の社会参加・生きがいづくりが重要課題である。「普-02 シニア演劇アカデミー」では、60歳以上の市民が演劇を通じて自己表現する場を提供し、参加者の8割以上から「参加して良かった」「人生に彩りが増した」との声を獲得した。同時に「普-06 NAGANO12訪問コンサート」は市内中学校および公民館を訪問し、子どもから高齢者まで年齢・立場を問わず一流の演奏に触れる機会を提供した。中学校吹奏楽部との共演やアーティストと生徒の交流を通じて、次代を担う児童生徒の音楽意識向上や地域コミュニティの活性化に貢献し、「つなぐ」役割を果たした。また、「普-07 スーパー・ウインド・オーケストラ with NAGANO12」では、中学生以上のアマチュア吹奏楽団員とレジデントアーティストNAGANO12が共演し、プロとアマチュアが同じステージで演奏を通じて学び合う仕組みを確立した。これにより世代間の垣根を越えた交流が生まれ、「高齢者に新たな挑戦の機会を提供しつつ若い世代に刺激を与え、地域のつながりを深める」という社会的意義を実現した。

◆経済的意義

7つの事業はいずれも独自性の高い企画であり、長野市内外からの来場者誘致につながり、周辺商業施設や飲食店への波及効果があったといえる。特に普-02では50人、普-05では63人、普-07では65人の市外及び県外からの来場があり、周辺店舗で飲食を行うなど、一定の経済効果を生んでいる。加えて、「ARTS ANGEL TICKET」プロジェクトや普-06の無料の訪問コンサートでは、無償の公演鑑賞の提供の結果、「芸術活動への親しみ」を育み、将来の文化消費層の確保などの効果も期待される。このように当館の普及啓発事業は単発的支出を超え、長期的な文化振興および地域経済への波及を見据えたものである。

◆第三期指定管理方針に基づく運営との連携

令和6年度から始まった第三期指定管理方針は、「共感によるつながりの形成」「社会的孤立の改善」「長野市民のWell-beingの向上」を目標とし、鑑賞事業・参加型事業・貸館事業・つながる事業の4つの事業を相互に連携させる運営を掲げている。今回の普及啓発対象事業では、各施策が以下のように方針の具体化に寄与した。

①鑑賞事業（普-01、普-03、普-04、普-05）

これまで定番化してきた公演を市民ニーズをもとに、さらにブラッシュアップし、多様な価値観をもつ市民が集い楽しめる空間を提供した。アンケートではいずれも85%以上の満足度を達成し、「多彩なジャンルの公演を定期的 to 実施することで、市民の鑑賞ニーズに応え、文化芸術への関心を喚起した」と評価できる。

②参加型事業（普-02、普-05、普-07）

普-02、普-05、普-07では、プロとアマチュアが協働しながらステージを創り上げる体験を提供した。「高齢者の外出機会の創出」「参加者同士が感動を共有できる場」等を実現することで、社会的孤立の改善や生きがいづくりに貢献した。また普-05では市民300名による大合唱により「創る」楽しさが拡がり、長野市芸術館が委嘱した新曲「春」の初演を通じて地域文化の刷新につながった。

③貸館事業

貸館の専門スタッフ及び舞台技術の専門スタッフが常駐し、丁寧な対応を実施、年度内に貸館利用者へ行ったアンケート結果では、94.6%の満足度を獲得した。これにより地域の音楽・舞踊・演劇等の団体や教室などが気軽に劇場を利用できる環境を整備し、文化芸術の裾野拡大を図った。

④つながる事業

「まち★ハブ事業」の一環として発行した音楽とまちを楽しむ情報誌「Knot&」では、普-06・普-07で活躍したNAGANO12の小山弦太郎氏と学生が市内企業（協賛社）を訪問し、取材と演奏会を実施した。これにより芸術館と地元企業・店舗のつながりを深化させたほか、SNSやホームページを通じた情報発信も強化し、認知度向上に寄与した。さらに次年度以降に向けて公民館や観光地と連携した訪問型催事を検討するなど、「劇場とまちをつなぐ」仕組みづくりが進展した。

・所見

